



真剣な眼差しで丸太と向き合う小野さん(左)

切ることのできる気付きがある おだこうで森の仕事に触れる一日

林業体験学習「おだこう フォレストリー ODAKO FORESTRY」が9月14日、内子高校小田分校で開かれました。生徒らは伐採見学の後、重機を操縦して丸太運びなどに挑戦。チェーンソーでの丸太切りでは「木の形に合わせて刃の向きを変えてみて」と教わりながら作業をしました。小野聡美さん(2年)は「繊細な技術が必要。生活を支えてくれている産業だと知り、イメージが変わった」と話しました。



みんなで協力して作業。おいしいお米になるかな

自分たちで植えたもち米、ついに収穫 天神小が棚田で稲作体験授業

天神小学校の稲刈り体験が9月14日、泉谷の棚田で行われ、同校の4年生が参加しました。稲は5月に子どもたちが植えたもの。田んぼを管理する上岡満榮さんが「鎌は下に向けて引くように」「刈ったらきれいにそろえて置いて」と指導し、子どもたちはたわわに実った稲を刈り取り、束にして次々と稲木にかけていきました。12月には収穫したもち米で餅つきを行う予定です。



男女ペアでバケツに玉を投げ入れる「新・なかよしさん」

競って、笑って、力を合わせて 秋恒例の「高齢者運動会」

内子・内子東自治センター対抗の「高齢者運動会」が9月17日に開かれ、管内の老人クラブ会員が参加しました。空き缶を足で立てる「缶立て競争」など11種目で競います。最終種目の玉入れでは、選手も応援もこの日一番の盛り上がりを見せました。結果は内子自治センターチームが4連覇を達成。参加者は「失敗も成功も、みんなでわいわい楽しめてよかった」と笑顔でした。



三役相撲では「よいしょ」の掛け声で力強く四肢を踏む

江戸時代の宮相撲から流れをくむ県大会 内子相撲クラブが団体戦連覇

「第33回愛媛県ちびっ子相撲内子大会」が9月22日、内子東自治センターで開かれました。県内8クラブなどから約70人の子ども力士が出場し、団体・個人戦で力強い取組を披露。団体戦決勝では内子相撲クラブAチームが愛南少年相撲クラブに4対1で勝ち、2年連続優勝に輝きました。末三役・結びの一番では主審が「待った」をかけ、「この取組は来年に」と伝統の継続を願いました。

学びと交流を深める7日間の大冒険 ボーイスカウトの祭典に参加

「第19回スカウトジャンボリー」が8月4～10日、広島県神石高原町で開かれました。国内外から約8,000人が集まり、さまざまな活動に挑戦。手旗信号などスカウトの基本技術が試されるプログラムに加え、サイクリングや登山では全国の参加者と交流を深めました。内子第1団の4人が参加し、高森一輝さんは「周りを見る力やコミュニケーション能力が身についた」と笑顔で振り返りました。



左から高森さん、武内優平さん、中野夏希さん、武内想平さん

まちの芝居小屋・映画館をたどるパネル展 人々の暮らしに彩を添えた18軒を紹介

パネル展「娯楽の殿堂」が9月4～30日の間、内子町ビジターセンターで開かれました。地域に根付く芸能文化を伝えるため、町に存在した芝居小屋や映画館の解説を図面や写真とともに展示。映写機などの関連品も訪れた人の興味を引いていました。来場者は「これほど娯楽施設があったことに驚き。また一つ、まちを知れた」と笑顔でした。今後、各地域でも巡回展を実施予定です。



明治から昭和40年ごろにかけて存在した施設を紹介

笑う門には、元気もやってくる 心上向く健康体操「笑いヨガ」体験会

笑うときの身振りや呼吸を取り入れた「笑いヨガ」の体験会が9月8日に開かれました。災害時の心身ケアに役立てようと内子町日赤奉仕団が初開催。参加者は講師の宇都宮富美子さんから「笑いにはストレス解消やリラックスの効果がある」と教わり、「ハハハ」と声を響かせながら体操に挑戦しました。丸山幸枝さんは「有事の際、少しでも気持ちを楽にできたら」と話しました。



仲間と一緒にだと笑いが広がって、楽しさも効果も倍増

続ける勇気が、夢をかなえる第一歩 リオ五輪アスリートが小学生へエール

「アスリート派遣事業」が9月8日、内子小学校4年生を対象に行われました。講師は陸上競技・三段跳びでオリンピックに出場した長谷川大悟さん。小学生時代は運動が苦手だったといい、「挑戦に才能や時期は関係ない。続ける勇気が成長の鍵」と語ります。実技指導では走る時の正しい姿勢を紹介。「背筋を伸ばし、前を向いて」とアドバイスし、子どもたちの成長を後押ししました。



「体は自然と動きを覚えていく。まずは丁寧に」と長谷川さん